



地域日本語教育への提言 —ボランティア育成の実践と課題—

研究代表者 吉永 尚 (人間健康学部 准教授)

共同研究者 磯田 宏子 (人間健康学部 総合健康学科 准教授)
 実藤 基子 (人間健康学部 人間看護学科 教授)
 村端 慶治 (人間教育学部 准教授)
 荘司 育子 (大阪大学大学院 言語文化研究科 日日センター 准教授)
 三枝 令子 (一橋大学大学院 法学研究科 教授)



連携協力者 松岡 康治 (尼崎市国際交流協会日本語教室 教室長・日本語ボランティア公開講座修了生)
 大路富美子 (尼崎市国際交流協会日本語教室 前教室長)
 高瀬 館長 (武庫公民館 館長)
 足立栄之資 (武庫公民館日本語教室 代表)
 門田真由美 (中央公民館)
 森岡 清美 (大庄公民館日本語よみかき学級 代表)
 岡本 道子 (小田公民館日本語よみかき学級 日本語学級委員・日本語ボランティア公開講座修了生)
 山家 朝子 (中央公民館中央日本語学級 日本語学級委員・日本語ボランティア公開講座修了生)
 桑田 和夫 (園田公民館 そのだ日本語サロン 館長)
 中村 大蔵 (園田苑 理事長)

[研究の背景]

昨今、国内の日本語学習者は増加傾向にあり、地域日本語教育のニーズが高まってきている。地域の施設・団体で学んでいる学習者は国籍やレベルが多様なため小規模単位による学習が望ましく、日本語ボランティアの養成は急務となっている。尼崎市でも技能研修生を中心に主にベトナム人やネパール人の居住者が増えてきており、国際交流協会や公民館日本語教室には待機者も出て効率的なボランティア育成が急がれている。

本学総合生涯学習センター公開講座「日本語を学ぼう、教えよう」は日本語ボランティアの養成を視野に入れ

2008年から開設されており、修了者は現在280名を超えており尼崎市国際交流協会を始め近隣の公民館日本語学級でボランティア講師や学級代表として活躍する人も出始めている。また、グローバル人材の育成や生涯学習の必要性が叫ばれる中、地域の国際交流活動や生涯学習の学びの場に学生が参加することも必要になっている。

[研究の目的]

尼崎市の日本語教育のニーズを調査し公表する。方法は日本語教室で講師や学習者にアンケートを実施し、教育上の問題点を精査する。調査資料の分析結果は貴重なデータであるので関連



機関に周知し、ニーズを公開講座内容にフィードバックすることで、より効率的なボランティア養成を目指す。

尼崎市の日本語クラスの国際交流活動や本学公開講座に学生が参加し経験値を高める。交換留学生やESS部員、国際交流研究会の学生を中心に地域の日本語クラスを見学・参加し、活動体験を総括する。

[平成 26・27 年度活動報告]

① 6 か所の日本語教室のボランティアの先生方と学習者を対象としてアンケートやインタビューによるニーズ調査を行った。

② 調査結果を講師側と学習者側でまとめた。

〈講師の日本語教育に関する問題点〉

- ・ 非漢字圏出身者に対する漢字教育が難しい。
- ・ アジアの特定の地域では、声調言語であるため、音声指導が難しい。

〈学習者の日本語学習に関する問題点〉

- ・ 送り仮名や漢字の音読み、訓読みが

難しい。

- ・ 擬態語を中心に感情感覚表現が多く難解。

③ 調査結果を図表にまとめ協力機関に配布。また、ニーズ内容を講座内容にフィードバックし、教材にも修正を加えた。

④ 市国際交流協会、武庫日本語学級に学生が参加し地域の外国人および公開講座修了者のボランティア講師と交流した。

[研究の成果・今後の課題]

ニーズ分析によって問題点を明らかにすることができた。ニーズを講座に還元することにより、今後も地域日本語教育の充実に貢献できると考える。より多くの学生に日本語学級の授業や行事に参加してもらい、人的交流をさらに広げていく必要がある。



参考文献

川端一博 (2013) 「国内の日本語教育の現状」『日本語学』 vol.32-3、明治書院